

「命を守るキーワード」

渋川市立渋川中学校 三年 小菅 優芽

小学校低学年のころ、今でも思い出す大雨の日があった。とてつもない勢いで屋根にうちつけられる雨の音。外を見ると、無数の透明な針が灰色の空から降ってくるようだった。なにより一番衝撃をうけたのは、家の近くにある水路の水がにごった茶色になり、今にもあふれそうに流れていたことだ。いつもは穏やかに流れている水が、たった半日の雨でこんなにも汚れ、陸地に迫ってくるかのように増えるのかと思うと、血の気が引いた。

最近によく土砂災害についてのニュースを見かけるようになった。道路にあふれる泥。土砂崩れによって埋まってしまった民家。その周辺を搜索する救助隊の姿。深緑の木々の間がうすぐらい茶色の土で隔てられているようだった。別の番組では河原が見えないくらい川が増水し、上にかかった橋のぎりぎりまで水位が高くなっている様子が映しだされていた。それを見た瞬間、あの大雨の日の水路のことを思い出した。あれでもこわかったのにもし近くの大きな川がこのようになってしまったらー。そのとき大雨、そして土砂災害は自分が思っているよりもずっと恐ろしいものだと思い出したのだ。

このような恐ろしい土砂災害から大切な命を守るために重要なことは一刻も早く逃げることだと思う。自分の命を守ることができるのは自分だけだ。

そこで私は、火災から避難する際に大切な「おはしも」にならって、災害から避難する際の自分なりのキーワードを考えてみた。それは「おかゆも」だ。

まず、「お」は落ちついて行動する、だ。もし警報や避難指示が出たら、冷静な判断をして、すみやかに行動に移すことが重要だ。あせらないように、防災グッズを用意し取りやすい場所に置いておくなど、落ちついて行動するためのことを普段から備えるのも大切なことだと思う。

次に「か」は「確認する」だ。まず、災害の情報を確認すること。どこで発生したか、自分の住んでいる地域は大丈夫か、などの情報をすばやく確認することでそれに応じた行動をとれる。次にハザードマップの確認。災害がおきてしまう前に避難場所や避難経路、危険な場所などをしっかり確認しておくことはすばやい避難につながる。最後に連絡手段の確認。災害はいつおこるかわからない。だから、家族などと災害発生時どうやって連絡をとるか、どこに集合するかなど話し合うことが必要だと思う。これらの三つの確認を通して日頃からの防災意識を高めていってほしい。

そして「ゆ」は「油断しない」だ。SNSなどで、日本人は災害に慣れすぎている、という投稿を見かけることがある。確かに度重なる災害に対して慣れてしまっている現状があるように思う。しかし、油断は禁物だ。いくら大丈夫だ、と思っても、想定されている以上に被害が及んでしまうかもしれない。災害を決して甘く見ず、自分の命を守るための最善の行動をとることは本当に重要だ。

最後に「も」。これは「おはしも」と同様に「もどらない」だ。いざ避難した際にか忘れ物などがあったても、絶対にもどってはいけない。どんな物よりも、命が一番大切だ。命を最優先に、もどらず安全な場所まで避難してほしい。

普段から防災意識を高め、災害についてやその対策などの知識を身につけておくことがとても大事である。そして、いざというときにこの「おかゆも」で大切な命を守ってほしいと思う。

恐ろしい災害から命を守るための備えを、私自身改めて確認しようと思った。防災についてもっと調べ、いつか自分の命を守る盾にしたい。

災害はいつおこるかわからない。災害をなくすことはほぼ不可能なことだ。だから、今できるうちに防災グッズを備えたり、避難経路を確認することは本当に大切だ。その一つ一つの行動の積み重ねが自分の大事な命を守ることにつながるのだ。